

H26年度運営方針を踏まえた数値目標と主な対策

運営方針1 活気あふれる学園づくり

【数値目標】基礎学力を備えた入学生の確保：60名

《主な対策》

(1) 高校の進路指導への要請活動強化

- ① 県内全高校の訪問（公立48校・私立14校・通信制4校 計66校）
県内高校3年生全員に農大募集チラシ配布。進路ガイダンス要請。オープンキャンパスへの生徒・保護者参加要請を強力に実施する。出前農大「先輩や教授陣が農大を語る会」（農業系全8校）農業系高校中心に在籍校へ依頼文発送済み。
- ② 進路コーディネーターの設置
- ③ 高校進路ガイダンスへの参加
地区別ガイダンス参加予定（大分・別府・中津・日田地区）
- ④ オープンキャンパスへの参加拡大（実施日：6月21日（土）、7月24日（木））
- ⑤ 県外出身高校への情報発信
実績校への情報提供、学生募集要項等を送付する。

(2) 攻めの情報発信と学内活力の醸成

- ① 農大ホームページの充実による情報発信力の強化
新入生の農大情報取得調査結果により
（高校の進路指導、保護者、ホームページ、新聞記事が多い）
- ② マスメディアの活用による情報発信
掲載回数20回以上（3月まで）
- ③ 県内農業祭等への農大コーナーの出展（同窓会との共催）、大分市内での農大フェアの開催（3回以上）

運営方針2 質の高い教育の提供

【数値目標】全国大会出場 最低1名1課題

《主な対策》

(1) プロジェクト研究の高度化

- ① 農林水産研究指導センター・振興局との連携プロジェクトの充実強化
H26年度 農林水産研究指導センター：14課題（直接連携3課題）
振興局：18課題
- ② 三重総合高校との高大連携プロジェクトの実施（5カ年計画・5年目）
- ③ 大分大学との連携プロジェクトの実施
総合経営特別講座：科目「農村社会学」（大分大学山浦准教授）
大分大学学生の研究論文を本校学生と共同で実施。
ヤンマー懸賞論文等へのチャレンジ。

(2) 農業法人等の期待に応えられる学生の育成

- ① 総合経営特別講座の実施と受講生の優位性発揮
2年生8名（成績、意欲、進路等）
実施内容：農業簿記、消費者ニーズとマーケティング、企業経営論、アグリビジネス論、農業経営分析、農村社会学、
研修：県外先進農家インターンシップ（全国の先進農業法人を想定、1週間程度）
流通研修（京都市場を想定、2週間程度）
- ② JGAP 認証取得に向けた農場管理の実践と JGAP 指導員の養成
（3カ年計画・3年目）
「農業生産工程管理手法」による野菜コース農場での取得を目指す。また、学生を主体に JGAP 「適合基準」に沿った管理点の改善を行う。

- ③日本農業技術検定合格者の向上（2級以上：10名）
7月19日（土） 2・3級
12月13日（土） 1・2・3級

運営方針3 新規就農者の確保

【数値目標】全学生・研修生の進路決定と就農率80%以上の確保

《主な対策》

(1) 農学部2年生への濃密支援及び進路先の開拓

- ①進路コーディネーターの設置
- ②農業法人との就職相談会の開催
7月7日（月）開催予定
参加法人数 ～ H23：22法人、H24：23法人 H25：23法人
- ③農業法人との情報交換、卒業生訪問
卒業生の定着指導を兼ねた求人情報等の取得、夏期休暇を利用した農業法人への見学、研修等の推進

(2) 研修生の就農確保

- ①振興局・関係団体との連携会の開催（4回以上）
- ②農業法人との就職相談会の開催

(3) 通信講座受講生への情報提供による就農への誘導

- ①入門コース・中級者コースの受講生の確保（20名）
- ②就農相談会参加者の確保（6名）
相談会実施予定時期 入門コース 8月上旬 中級者コース 1月